

# 調 査 票

番 号	12	所管府省名	厚生労働省
-----	----	-------	-------

独立行政法人名 (HPアドレス)	独立行政法人医薬基盤研究所 ( <a href="http://www.nibio.go.jp/index.shtml">http://www.nibio.go.jp/index.shtml</a> )	特定・非特定 の別	非特定
---------------------	--	--------------	-----

## 1 組織名及び職員数等

	組 織 名	職員数(役員を除く)	
		常 勤	非常勤
移行前(発足時の前日)	A 国立医薬品食品衛生研究所	47人	22人
	プロパー職員数	47人	22人
	所管官庁からの出向者数	0人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	0人	0人
	その他( )	0人	0人
	B 国立感染症研究所	20人	16人
	プロパー職員数	20人	16人
	所管官庁からの出向者数	0人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	0人	0人
	その他( )	0人	0人
	C 独立行政法人医薬品医療機器総合機構	11人	8人
	プロパー職員数	0人	8人
	所管官庁からの出向者数	0人	0人
所管官庁以外の官庁からの出向者数	11人	0人	
その他( )	0人	0人	
発足時 (平成17年4月1日現在)	独立行政法人医薬基盤研究所	78人	40人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	45人	18人
	所管官庁からの出向者数	29人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	0人	0人
	移行後の採用者数	4人	22人
	その他( )	0人	0人
平成18年4月1日現在	同上	86人	48人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	44人	13人
	所管官庁からの出向者数	30人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	0人	0人
	移行後の採用者数	12人	35人
	その他( )	0人	0人
平成19年4月1日現在	同上	85人	76人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	42人	11人
	所管官庁からの出向者数	29人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	0人	0人
	移行後の採用者数	14人	65人
	その他( )	0人	0人

## 2 指定職又は役員数等

	役員数等	
	常 勤	非常勤
移行前(発足時の前日)	0人	0人
発足時(平成17年4月1日現在)	1人	3人
	移行前において指定職・役員であった者の数	0人
平成18年4月1日現在	1人	3人
	移行前において指定職・役員であった者の数	0人
平成19年4月1日現在	1人	3人
	移行前において指定職・役員であった者の数	0人

### 3 指定職・役員給与総額及び個人別給与年額

指 定 職 ・ 役 員 の 給 与 総 額	
支 給 年 度	報 酬 総 額
移行前の最終1年度間（平成16年度）	-
発足時（平成17年度：平成17年4月～18年3月）	24,065千円
平成18年度	25,758千円

指 定 職 ・ 役 員 個 人 別 の 給 与 年 額		
支 給 年 度	役 職 名	報 酬 年 額
移行前の最終1年度間（平成16年度）	-	-
発足時（平成17年4月～18年3月）	理事長	16,693千円
	理事（非常勤）	4,544千円
	監事（非常勤）	1,700千円
	監事（非常勤）	1,128千円
平成18年度	理事長	18,402千円
	理事（非常勤）	1,890千円（5月）
	理事（非常勤）	2,646千円（7月）
	監事（非常勤）	1,692千円
	監事（非常勤）	1,128千円
平成19年度（4月～9月までの6カ月分）	理事長	9,192千円
	理事（非常勤）	2,268千円
	監事（非常勤）	846千円
	監事（非常勤）	564千円

（注）役員は、非常勤を含む

#### 4 役員氏名等

(平成19年4月1日現在)

氏名	公務員 経験	独法等 役員経験	役職名	就任年月日	就任時年齢
経歴					
兼職先			役職名	常勤・非常勤	有給・無給
山西 弘一		-	理事長(常勤)	H17.4.1	63歳
昭和47年大阪大学微生物病研究所研究副主 大学院医学系研究科教授、大学院医学系研究科附属バイオメディカル教育研究センター長、 大学院医学系研究科・医学部長 平成17年3月31日退職					
大阪府健康福祉部			審議会委員	非常勤	有給
大阪薬科大学			評議員	非常勤	有給
財団法人小林国際奨学財団			選考委員	非常勤	有給
厚生労働省医薬食品局			ワクチン産業ビジョン推進委員	非常勤	有給
(財)阪大微生物病研究会			委員会委員	非常勤	有給
(財)科学技術振興機構			科学技術連携施策群副主監	非常勤	無給
大阪大学大学院薬学研究科			招へい教授	非常勤	無給
大阪大学歯学部			招へい教授	非常勤	無給
大阪大学微生物病研究所			非常勤講師	非常勤	有給
けいはんな新産業創出・交流センター			諮問委員	非常勤	有給
平山 佳伸		-	理事(非常勤)	H18.9.1	53歳
昭55年厚生省入省 医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構治験指導部治験相談第一課長、国立医薬品食品衛生研究所医 薬品医療機器審査センター審査第一部長、厚生労働省医薬食品局安全対策課長 平17.8.31退職(出向)					
大阪市立大学大学院			教授	常勤	有給
大田 晋		-	監事(非常勤)	H17.4.1	58歳
昭46年厚生省入省 厚生省老人保健福祉局企画課長、環境庁大気保全局企画課長、広島市助役 平10.11.11退職(大臣官房付)					
学校法人川崎医療福祉大学			教授	常勤	有給
具嶋 弘	-	-	監事(非常勤)	H17.4.1	62歳
山之内製薬(株) 平14.7.31退職					
福岡県バイオバレープロジェクト			非常勤プロデューサー	非常勤	有給
(株)ハプロファーマ			非常勤取締役	非常勤	無給

(注) は、国家公務員経験者で旧国立大学の教官経験者

## 5 退職金支給総額等

支給年度	役職員の退職金支給総額 (うち役員への支給総額)	職員に対する退職金平均 支給額		左の平均勤続年数	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
発足時(平成17 年4月～18年3 月)	0千円 (0千円)	0千円	0千円	-	-
平成18年度	71,716千円 (0千円)	17,929千円	0千円	20.0年	-

退職年度	役員別の退職金支給額		
	役職名	退職金額	計 算 式
発足時(平成17 年4月～18年3 月)	-	-	-
平成18年度	-	-	-

## 6 独立行政法人評価委員

引き続き調査中

### 13 独立行政法人から他の法人等への出向職員数等

	出向職員数	経過年数					出向先の区分	出向者の給与について補填している場合	
		1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4年以上		対象人数	補 填 総 額
発足時(平成17年4月～18年3月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成18年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成19年度(4月～9月までの6カ月分)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 14 中期計画の数値目標等

計画期間	第1期 平成17年度～21年度
中期計画に定められた数値目標一覧	
<b>【全体的事項】</b>	
<p>研究開発振興業務に係る一般管理費（退職手当を除く。）の中期計画予算については、中期目標期間の終了時において、平成16年度と比べて15%程度の節減額（事業の見直し等に伴い平成17年度から発生する一般管理費については平成17年度と比べて12%程度の節減額）を、その他の業務の運営費交付金に係る一般管理費（退職手当を除く。）の中期計画予算については、中期目標期間の終了時において、平成17年度と比べて12%程度の節減額を見込んだものとする。</p> <p>このうち、人件費（退職手当及び福利厚生費（法定福利費及び法定外福利費）を除く。）については、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）を踏まえ、平成18年度以降の5年間に於いて、5%以上の削減を行う。これを実現するため、中期目標期間の最終年度までの間において平成17年度と比べて4%以上の削減を行うものとする。</p> <p>本研究所で行う事業の成果の普及を目的とした講演会等及び研究所の一般公開をそれぞれ毎年1回以上開催</p> <p>生物資源研究部各研究室、霊長類医学科学研究センター及び薬用植物資源研究センターにおいて研究者等に対し専門的技術・知識を伝達する生物資源利用講習会を年1回以上実施</p> <p>基盤的研究及び生物資源研究の研究成果につき年間60報以上の査読付き論文を科学ジャーナル等論文誌に掲載</p> <p>本研究所で単独又は共同で行った研究成果に基づき、本研究所又は共同研究者による特許権の出願・取得を積極的に行う。本中期目標期間中に25件以上の出願を行うことを目標</p>	
<b>【基盤的技術研究】</b>	
<p>《医薬品安全性予測のための毒性学的ゲノム研究》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・150の化合物について生体ラット及び培養ヒト・ラット肝細胞を用いた、遺伝子発現データ、毒性学的データ、毒性予測遺伝子マーカー及び臨床副作用情報を格納したデータベースを構築</li> </ul> <p>《疾患関連たんぱく質の有効活用のための基盤技術開発》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血清を対象とし、各疾患毎のたんぱく質を選び出し、その定量法を確立：約1500個</li> <li>・疾患により変動する新規たんぱく質の同定：約400個</li> </ul>	
<b>【生物資源研究】</b>	
<p>《遺伝子》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経疾患関連遺伝子cDNAクローン収集：約400種</li> <li>・カニクイザル標準遺伝子クローン開発：5,000種以上</li> <li>・チンパンジー標準遺伝子クローン開発：1,000種以上</li> <li>・遺伝子年間供給件数：約100件</li> </ul> <p>《培養細胞》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・培養細胞の収集：毎年40種類</li> <li>・供給件数：年間約3,500件</li> </ul> <p>《薬用植物》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな種子の保存：2,000点以上</li> <li>・センター保有の重要な薬用植物等の特性、成分、生物活性等の情報をデータベース化：100種</li> <li>・薬用植物等の活性成分解明：200検体</li> </ul> <p>《実験小動物》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患モデル動物の開発：10系統</li> </ul> <p>《霊長類》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝的背景の明らかな高品質研究用カニクイザルの供給：年間150頭</li> </ul>	

**【研究開発振興】**  
 新規採択課題については、公募締切から採択決定までの期間を、中期目標期間終了時まで、中期目標期間前の5年間の平均期間と比べ0.5ヶ月間程度短縮

《実用化研究支援事業》採択課題（指定研究を除く。）1件あたりの査読付論文の発表数を、中期目標期間終了時まで、中期目標期間前の5年間の平均件数と比べ、10%程度以上増加

《実用化研究支援事業》採択課題（指定研究を除く。）1件あたりの特許出願件数を、中期目標期間終了時まで、中期目標期間前の5年間の平均件数と比べ、10%程度以上増加

	達成状況	評価結果
平成17年度	各数値目標ともに順調に進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度に当たる平成17年度においては、理事長のリーダーシップの下、研究所の将来構想について検討を行い、新たな研究プロジェクトの設置など機動的かつ効率的な組織体制の整備を図るとともに、運営評議会、基盤的研究等外部評価委員会など外部有識者も含めた業務管理体制の整備を図った点を評価する。</li> <li>・組織改正・移転に伴う体制整備を図りつつ、設立初年度としては十分な成果が上げられている。</li> </ul>
平成18年度	各数値目標ともに順調に進捗している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務運営の効率化に伴う経費削減に関しては、所定の削減率を織り込んだ中期計画予算に基づいて予算計画を作成し、一般管理費及び人件費については予算の範囲内で執行されている。</li> <li>・光熱水料、複写機使用料、交通費、振込手数料の節減を図るとともに、研究用機器の共同利用の推進など経費節減に地道に取り組んでいる。</li> <li>・論文発表数は中期計画の目標を上回っており、インパクトファクターの高い学術誌への掲載が多いなど水準も高い点が評価できる。</li> <li>・世界最大のデータ量と世界でも類を見ない高品質なデータを格納した「トキシコゲノミクスデータベース」を完成するとともに、医薬品候補物質の肝毒性等を早期に予測できる「医薬品安全性予測システム」を構築できたことは評価できる。</li> <li>・医薬品等の開発に不可欠な生物資源（遺伝子、培養細胞、実験用動物及び薬用植物）の収集・保存・品質管理・供給等が着実に実施されるとともに、これらの業務に不可欠な研究開発や新たな生物資源の開発等が適切に行われている。</li> </ul>

**15 中期計画期間における特筆すべき研究あるいは業務の成果**

世界最大のデータ量と世界でも類を見ない高品質なデータを格納した「トキシコゲノミクスデータベース」を完成するとともに、医薬品候補物質の肝毒性等を早期に予測できる「医薬品安全性予測システム」を構築した。

### 17 行政組織から独立行政法人への再就職

(平成19年4月1日現在)

独立行政法人での役職名	氏名	独立行政法人への再就職年月	国の行政組織での最終役職名
(独)医薬基盤研究所監事(非常勤)	大田 晋	平成17年4月	厚生労働省大臣官房付
(独)医薬基盤研究所参与	鶴岡 勇夫	平成19年4月	財務省主計局付
(独)医薬基盤研究所嘱託	ア	平成19年4月	(独)国立病院機構刀根山病院管理課長
備考 「氏名」欄に具体的な名前を記載している者は、行政組織において課長相当以上であった者又は営利企業への再就職後に当該独立行政法人に再就職した者であり、それ以外の者は、個人のプライバシー保護等の観点から名前の記載の代わりにア、イ、ウ等の符号で表記している。			

### 18 独立行政法人から他の法人への再就職

独立行政法人(前身の法人)での最終役職名	氏名	出身組織	他の法人への再就職年月	再就職先での役職名
理事(非常勤)	ア	文部科学省 (北海道大学)	平成18年4月	横浜薬科大学薬学部長
プログラムオフィサー	イ	厚生労働省 (国立精神・神経センター)	平成18年10月	大阪府立身体障害者福祉センター附属病院参事
備考 「氏名」欄に具体的な名前を記載している者は営利企業に再就職した者であり、それ以外の者は、個人のプライバシー保護等の観点から、名前の代わりにア、イ、ウ等の符号で表記している。				

「出身組織」欄は、その者が最も長く所属していた組織を記載しており、国の組織の場合は、「府省名」を、当該独立行政法人(前身の法人を含む)の場合は「独法」と、その他(民間企業、地方自治体等)の場合は「その他」と記載している。